2024年度第4回日本学連幹事会議事録

【日程】2025年3月21日(金) 9:30 ~ 12:30

【開催場所】京都大学吉田南 zoomを用いたオンライン併用

【議事録作成者】西澤汰知(東北大学)、石井雅人(東北大学)、早川正真(立命館大学)

【目次】

1.インカレ実施規則の全文改訂.....	3
2.前年度選手権大会入賞者の枠配分における扱い.....	3
3.2023年度決算.....	4
4.2024年度中間決算・2025年度予算.....	5
5.練習会・合宿開催時の届出について.....	5
6.後援に関する規則の改正.....	5
7.理事の承認.....	5
8.活動報告書の作成.....	5
9.部局報告.....	6

2024年度第4回日本学連幹事会議事録

出席者(敬称略)

氏名	役職	学校名
遠藤陽太	幹事長	東京大学
石川翔太	会計	東京大学
森創之介	事業部長	横浜国立大学
加藤賢斗	事業部員	筑波大学
石塚陽広	普及部長	大阪大学
高橋悠	渉外部員	横浜市立大学
西澤汰知	広報部長	東北大学
早川正真	広報部員	立命館大学
石井雅人	広報部員	東北大学
川瀬智尋	事務局長	奈良女子大学
石原尋季	事務局員	京都工芸繊維大学
毛利智紀	技術委員会	京都大学
坂本拓登	北東学連幹事長	北海道大学
古谷那奈	関東学連幹事長	千葉大学
加藤優拓	中九四学連幹事長	広島大学
森田龍雲	北信越学連幹事長	新潟大学
佐藤若葉	次期渉外部長	東北大学
屋敷龍吾	次期技術委員	京都大学
飯野正太郎	次期技術委員	東京科学大学
山崎僚太	次期北東学連幹事長	岩手大学
美濃部遼	次期関東学連幹事長	筑波大学
井上風太	次期中九四学連幹事長	広島大学

1. インカレ実施規則の全文改訂(毛利)

概要

資料の通りインカレ実施規則に関して全文改訂を行う。大きな改正点としては、日本オリエンテーリング競技規則に準ずるものとして、インカレ固有の条項のみ残す、優勝設定時間をIOF競技規則や日本オリエンテーリング競技規則に近づける、上訴に関する項目を追加した点がある。

2. 前年度選手権大会入賞者の枠配分における取り扱い(遠藤)

概要

前年度選手権大会入賞者が日本ランキングにおいて、ランキング内定枠に入っている場合は重複しないので問題ない。一方で内定枠以外の出場枠に入賞者がいる場合、自分の入賞者による枠と学連に出場枠を提供できる。そのため、ある学連にとって出場枠を2重にとれてしまう。入賞者にとって、ランキングをあえて上げないほうが、学連にとって有利に働く。対処案を提示するので意見がほしい。

2025年度適用の一時的な対処案

前年度入賞者によるランキング内定枠以外の出場枠による枠の2重取得を認めない

メリット: 二重に枠を獲得することへの対処が可能。現在の規則を大きく変更することなく対応できる。

デメリット: 本来枠を獲得できるランキングであるはずなのに、前年度入賞者がいる分だけ、地区学連が出場枠を獲得できない。前年度入賞者が枠ボーダー付近にいる際、わざとランキングを上げないほうが、地区学連に貢献できてしまう。

2026年度以降の対処案

①前年度入賞者の翌年の出場枠獲得の廃止

メリット: 2重に枠を獲得することを防げる、事務的な負担が少ない

デメリット: 選手権クラスにふさわしい選手を救えない。

②前年度入賞者はランキングから削除し、入賞者以外で出場枠を争う

メリット: 2重に枠を獲得することを防げる、前年度入賞者を維持できる

デメリット: 運用面で問題がある。

質問

森: 二重で枠をとることがなぜ悪いのか。従来の枠制度でも認められていた。

枠数がオーバーになってもよいのではないか。

毛利: 前年度入賞者が内定圏内にいるときは枠の重複が認められていない。意図的にランキングを下げた方が良くはならない。

森: 前年度入賞者出場枠がなくなると、インカレの価値が下がってしまうのは確かにある。

2024年度第4回日本学連幹事会議事録

坂本: セレに出場しなくてもインカレに出場できる方法は、前年度入賞するかランキング内定枠の二つであり、大会で決めるのか、ランキングで決めるのか方針が二つあるのではないかと。

毛利: ランキングで評価するルールに変更したのに、インカレの結果のみで内定する制度は、制度改正の目的とは合っていない。

遠藤: ランキングの2重取得はある地区に強い人が多いだけで、実力が伴わない選手も出場できてしまうのは良くない。

西澤: ②で委託側から断られたとあるが、どのようにして断られたのか。

毛利: 入賞した時点でランキングから外すのはNishiPro側として違和感がある。

西澤: 入賞者を自分たちで外して考えればよいのでは。

毛利: 人の入れ替わりが激しいので、正しく引き継ぎ続けることができない可能性がある。そのため、ランキングの表示から削除するなど、制度を使う側の作業のない形で制度を定めたい。

遠藤: NishiPROからは入賞者を削除することに対しての打診が断られただけで、②案を断られたわけではない。

坂本: 前年度入賞者がランキング出場枠にも入っていない場合、枠獲得数をその分減らすのはどうか。

遠藤: 選手権出場者数を規定通りの人数にしやすい。

遠藤: ②について、NishiPROに断られているが、制度の運用として自分たちで数えることに問題ないのでは。正確な人数は技術委員会による発表もある。

今後

2025年度の一時的な対処が次年度以降も適用される可能性があるため、次の総会では②の案を一時的な対処として適用したい。

3.2023年度決算(遠藤)

概要

黒字は、大規模な地図修正が一部しかできずに予算が余った、オンラインに予算を付けたが実施しなかったなどがある。

4.2024年度中間決算・2025年度予算(遠藤)

概要

2024年度第4回日本学連幹事会議事録

2024年度中間決算に関しては、収入に対して支出が150万円ほど少なくなっている。これは地図作成費が一部しか使用されなかった、幹事会・講習会等の経費精算が終わっていないことなどによる。

2025年度予算に関して、収入に比べ支出が多いのは、前年度のインカレ貸付金の返金がないためである。2024年度のトレイン管理・地図修正など地図に関する支出の差異は坂野山遊地図企画との契約内容に基づくものに変更となっている。

インカレ貸付金の返金を差し引いても、支出が少ない状況が続いている。学生に還元する方法や、登録費の減額などを検討していく必要がある。

5.練習会・合宿開催時の届出について(遠藤)

概要

練習会・合宿開催時には必ず日本学連にグーグルフォームで申請書と報告書を提出する。地区学連には日学から共有し、都道府県には必要に応じて別途提出する。締切は各地区の締切に従う。

報告書では、涉外問題、救急搬送、有害動物の出没などの有無について聞く予定である。もし、練習会内で大きな事故が起きた時の賠償に関して、日本学連として救済を差し伸べることができる。

6.後援に関する規則の改正(石川)

概要

日本学連が後援する大会に関して、賛助会員に対する便宜として大会参加費の割引を行うことがある。このとき、大会主催団体に今までは賛助会員1名あたりに1000円を支給していたが、上限として、割り引いた金額を団体に支給するように変更したい。

7.理事の承認(遠藤)

概要

理事は2年で承認をとることになっている。承認が必要な理事として、木村理事、浴本理事、天野理事、稲田理事がいる。

決議

満場一致の賛成で承認

8.活動報告書の作成

概要

本来5年ごとに日本学連の活動報告書を作成していたが近年していなかったため、遠藤幹事長主導で作成する。各部局にも協力を頼みたい。

9.部局報告

概要

2024年度第4回日本学連幹事会議事録

資料の部局報告を参照のこと